

関西対策委員会 震災への対応を協議

第1回の「阪神・淡路大震災 関西対策委員会」が、4月17日に大阪市で開かれた。阪神・淡路大震災対策日図協役員・委員長関西懇談会（3月17日）や平成6年度第2回評議員会（3月24日）での協議、決定を受けて設置されたもので、今後の情報収集や救援対策にあたる。

委員会の構成は、委員長に三苦正勝氏（日図協理事）、副委員長に伊藤峻氏（大阪公共図書館協会）。委員は堅田康夫氏、平井理氏、江崎邦彦氏、服部裕太氏、二宮博行氏に、大学図書館関係者が加わり、被災地の兵庫県図書館協会からはオブザーバーで参加する。

当日の委員会では、お見舞金の配付については調査票を踏まえて早急

に振り分けの作業を行うこと、損壊状況について記録を残し伝える立場から調査を行うこと、復興基金についてはさまざまな意見も踏まえて委員会で判断していくことが決まった。

なお、第2回委員会は、5月17日豊中市立岡町図書館で開催された。

▶ 図書館施設の被害調査実施

日本図書館協会施設委員会では、今回の地震による被害状況を詳しく知り、今後の図書館施設の強化改善に役立てることを目的に調査を実施した。調査は2月10日～3月13日に行われ、現地調査で確認した20館と電話での聞きとりによる40館の公共・大学図書館が対象である。

（本誌 p 443～452 に掲載）